陸前高田「希望の庭」雨水活用支援プロジェクト

発表者：松本 正毅

《発表概要》
今年５月に、雨水利用事業者の会との協働で行った、陸前高田「希望の庭」への雨水活用支援プロジェクトについて、支援に至った経緯や支援の様子を報告します。

陸前高田「希望の庭」雨水活用支援プロジェクト

元小学校教師の吉田正子さんが、園芸の好きな被災者仲間やボランティアたちと一緒に「花っこ畑」を作り始めたのが、2011年夏。
その後、震災復興支援団体『花の力プロジェクト』ら、全国から多くのボランティアが関わり、
「陸前高田市民と復興を願う人々が集う庭になるように」と願い、
「希望の庭」と呼ぶように なったとのこと。
また一角には、滋賀県立大学環境科学部／柴田いづみ教授指導のもと、
間伐材を利用して、学生たちが作り上げたのが、「希望の庭の小さな家」。
「家があっての庭…」吉田さんの言葉を受けて、柴田教授が寄贈されました。
そして「水があっての花」。
「雨水活用が、この庭にとって象徴的存在となってほしい」という
吉田さんの想いを実現すべく、雨水市民の会と雨水利用事業者の会が
協力して設置、寄贈いたしました。

2012年11月

■周辺の様子〔2012年11月〕

吉田さんから当時の状況を伺う
（写真は、津波に流される自宅と震災前の現地）

地盤沈下で水が貯まったままの陸前高田駅近く

４階まで津波に呑まれた５階建団地（海岸線に近いバイパス付近）

津波に破壊されたままの防波堤

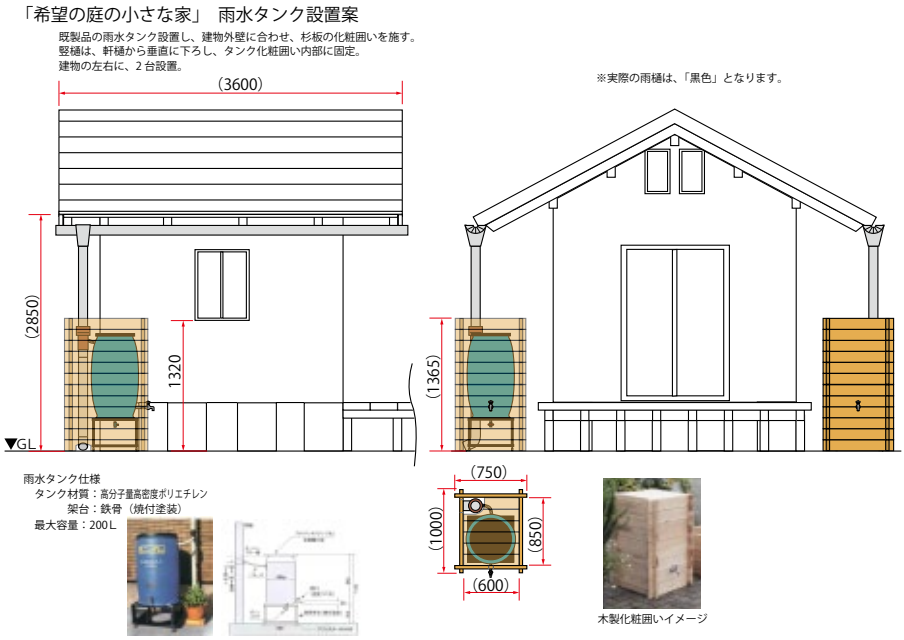
■ 場　所：岩手県陸前高田市米崎町（吉田さん自宅跡地）

■ 期　間：調　　査＞2012 年 11 月 13・14 日
　　設置工事＞2013 年　5 月 17・18 日

■ 設置施設

（1）雨水タンク［200ℓ］：2 基

「小さな家」の左右両脇に、家の外壁と同じく間伐材でできた特注雨水タンク。
「ミニダム／サンエービルドシステム（株）」、雨水集水器、縦樋と配管をまるごと
「雨櫃 AMEBITS ミニ／（有）風大地プロダクツ」の杉板で囲い内側に縦樋を這わせて固定できたので、
すっきり・しっかりとした仕上がりになりました。



内部「ミニダム」

「雨櫃 AMEBITS ミニ」応用

「小さな家」の両脇に設置された雨水タンク

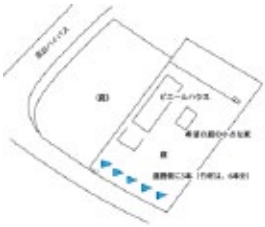
（2）雨水簡易集水ネット「雨葉」：5張り　＊貯水部はテラコッタの鉢［約80ℓ］
市民の会会員でもある吉村デザイン工房（福岡県）の製品「雨葉（あめは）」。
畑や山中などの屋根のない所にネットを張り、雨水を集めるユニークな品。
シンボリックでありながら庭と調和し、良い景観をつくっていました。

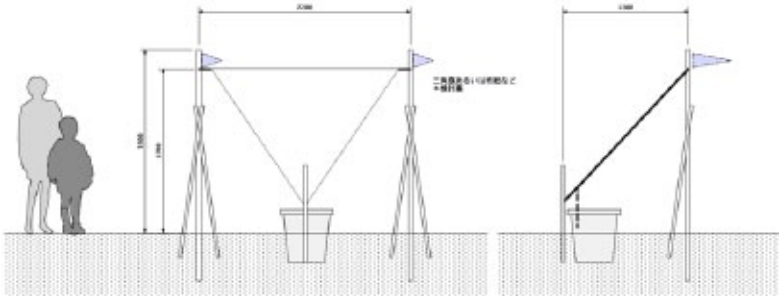
「希望の庭・小さな家」お花畑の集水ネット

■雨水簡易集水ネット「雨葉」の設置

庭の道路側に5本設置　＊予算上で可能であれば６本（予備1本）

【材料】1）雨葉：５セット
2）貯水用鉢：５鉢
3）竹材　＜＜６基分を現地手配を依頼
太さ40～50ミリ程、長さ2300～2400ミリ程の竹：12本
太さ20～30ミリ程、長さ1600ミリ程の竹：30本（うち1000ミリ6本）
4）飾り　＊





70cm ほど地盤沈下した土地に砂利を
入れている為、途中から鋼管の杭を打つのも大変。

吉田さんに「雨葉」について説明

「雨葉」集水の様子

EM 菌を混ぜた震災の木材瓦礫をチップ状にした緑化基盤材が利用されていました

お花畑の向こうは、消えては現れる瓦礫分別処理場の山

＊無断複写・複製・転載禁止＊

Copyright(C)2013 People for Rainwater All rights reserved.